

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年2月14日
【四半期会計期間】	第65期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	星和電機株式会社
【英訳名】	SEIWA ELECTRIC MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 増山 晃章
【本店の所在の場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【電話番号】	0774（55）8181
【事務連絡者氏名】	専務取締役 愛知後 秀作
【最寄りの連絡場所】	京都府城陽市寺田新池36番地
【電話番号】	0774（55）8181
【事務連絡者氏名】	専務取締役 愛知後 秀作
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第3四半期連結 累計期間	第65期 第3四半期連結 累計期間	第64期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(千円)	12,525,783	11,805,233	19,813,225
経常損失( )(千円)	1,216,047	481,030	569,779
四半期(当期)純損失( )(千円)	1,262,620	1,229,959	642,749
四半期包括利益又は包括利益(千円)	1,378,220	1,254,252	646,051
純資産額(千円)	7,194,974	6,563,423	7,926,977
総資産額(千円)	21,155,481	18,303,542	22,959,689
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ( )(円)	104.32	101.64	53.11
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	33.6	35.3	34.1

回次	第64期 第3四半期連結 会計期間	第65期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純損失金額(円)	29.97	42.24

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### （1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興関連需要などを背景にした堅調な国内需要により、ゆるやかな景気の持ち直し傾向が見られました。しかしながら、長引く欧州の債務危機や新興国経済の減速などの影響により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いています。

このようななか、当社グループにおきましては、従来にも増してコスト低減活動、製品品質向上活動に努め、顧客満足度を高めるべく提案営業活動を推し進め、事業推進力の一層の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は118億5百万円（前年同四半期比5.8%減）となりました。営業損失は4億44百万円（前年同四半期は11億71百万円の損失）、経常損失は4億81百万円（前年同四半期は12億16百万円の損失）となりました。

また、特別損失として当社の製造設備の減損損失と子会社の固定資産の減損損失を計上したことにより四半期純損失は12億29百万円（前年同四半期は12億62百万円の損失）となりました。

なお、当社グループの情報機器事業の売上高は通常の形態として、他の四半期に比べ第4四半期に完成する工事の割合が大きいため、業績に季節の変動があります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### （情報機器事業）

主力製品であります道路情報機器において、高速道路向けの売上が前年同四半期に比べ減少しました。この結果、売上高は42億36百万円（前年同四半期比15.7%減）、セグメント損失は86百万円（前年同四半期は79百万円の損失）となりました。

#### （照明機器事業）

民間設備投資関連の産業用照明器具は、LED照明器具や蛍光灯器具などが着実に伸び、前年同四半期に比べ増加しました。一方、公共投資関連の道路・トンネル照明器具は減少しました。また、LEDデバイス部品は微減となりました。この結果、売上高は39億36百万円（前年同四半期比3.1%増）、セグメント損失は2億45百万円（前年同四半期は4億77百万円の損失）となりました。

#### （コンポーネント事業）

エアコン用の配管保護機材は前年同四半期に比べ増加しましたが、配電盤や機械装置に用いる産業用配線保護機材は減少しました。また、電磁波環境部品はデジタル関連市場の落ち込みにより減少しました。この結果、売上高は33億25百万円（前年同四半期比4.2%減）、セグメント利益は7億51百万円（前年同四半期は5億76百万円の利益）となりました。

#### （その他の事業）

メカトロ製品は17百万円、商品仕入販売は1億83百万円、情報サービスなどは1億6百万円となりました。この結果、その他の事業の売上高は3億7百万円（前年同四半期比46.6%増）、セグメント損失は32百万円（前年同四半期は91百万円の損失）となりました。

### （2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はなく、また、新たに生じた重要な対処すべき事項はありません。

### （3）研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億33百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,782,000
計	33,782,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	12,382,000	12,382,000	大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株であります。
計	12,382,000	12,382,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	12,382,000	-	3,380,000	-	3,613,665

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 281,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,967,000	11,967	-
単元未満株式	普通株式 134,000	-	-
発行済株式総数	12,382,000	-	-
総株主の議決権	-	11,967	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 星和電機株式会社	京都府城陽市寺田 新池36番地	281,000	-	281,000	2.27
計	-	281,000	-	281,000	2.27

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清友監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,811,627	2,631,448
受取手形及び売掛金	9,191,724	5,083,663
有価証券	4,985	-
商品及び製品	781,537	1,351,480
仕掛品	212,534	641,886
原材料及び貯蔵品	2,513,577	2,276,807
その他	104,441	152,946
貸倒引当金	251	82
流動資産合計	15,620,176	12,138,150
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,109,524	5,116,420
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,960,704	3,094,248
建物及び構築物(純額)	2,148,819	2,022,171
その他	9,362,664	9,320,118
減価償却累計額及び減損損失累計額	7,169,262	8,069,598
その他(純額)	2,193,401	1,250,520
有形固定資産合計	4,342,221	3,272,691
無形固定資産	296,220	270,902
投資その他の資産		
投資有価証券	1,463,919	1,395,810
その他	1,328,379	1,304,407
貸倒引当金	91,228	78,420
投資その他の資産合計	2,701,070	2,621,797
固定資産合計	7,339,512	6,165,391
資産合計	22,959,689	18,303,542
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,788,989	3,581,779
短期借入金	5,038,435	3,238,997
1年内返済予定の長期借入金	997,000	928,500
未払法人税等	31,894	32,250
賞与引当金	251,632	94,941
受注損失引当金	82,310	96,628
その他	1,351,405	837,245
流動負債合計	11,541,667	8,810,341
固定負債		
長期借入金	2,970,100	2,424,850
退職給付引当金	150,568	161,211
役員退職慰労引当金	71,990	71,990
環境対策引当金	73,836	73,836
その他	224,549	197,888
固定負債合計	3,491,043	2,929,776
負債合計	15,032,711	11,740,118

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,380,000	3,380,000
資本剰余金	3,613,665	3,613,665
利益剰余金	784,470	554,403
自己株式	197,284	197,672
株主資本合計	7,580,851	6,241,590
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	289,633	253,942
為替換算調整勘定	38,294	31,896
その他の包括利益累計額合計	251,339	222,045
少数株主持分	94,786	99,788
純資産合計	7,926,977	6,563,423
負債純資産合計	22,959,689	18,303,542

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	12,525,783	11,805,233
売上原価	11,101,918	9,840,713
売上総利益	1,423,864	1,964,519
販売費及び一般管理費	2,595,273	2,408,669
営業損失( )	1,171,408	444,150
営業外収益		
受取利息	5,897	2,608
受取配当金	23,082	25,129
不動産賃貸料	26,344	26,195
その他	38,409	39,445
営業外収益合計	93,734	93,378
営業外費用		
支払利息	49,721	53,705
売上割引	46,025	46,671
為替差損	22,131	2,404
シンジケートローン手数料	13,244	17,436
その他	7,249	10,040
営業外費用合計	138,373	130,258
経常損失( )	1,216,047	481,030
特別利益		
投資有価証券売却益	4,208	742
貸倒引当金戻入額	-	845
特別利益合計	4,208	1,587
特別損失		
固定資産除却損	7,232	3,363
減損損失	-	716,628
投資有価証券売却損	13,134	2,902
投資有価証券評価損	14,777	-
支払補償金	19,303	-
ゴルフ会員権評価損	250	1,450
特別損失合計	54,698	724,344
税金等調整前四半期純損失( )	1,266,536	1,203,787
法人税、住民税及び事業税	18,272	16,922
法人税等調整額	17,143	5,077
法人税等合計	1,129	22,000
少数株主損益調整前四半期純損失( )	1,267,666	1,225,788
少数株主利益又は少数株主損失( )	5,046	4,171
四半期純損失( )	1,262,620	1,229,959

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	1,267,666	1,225,788
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	77,958	34,861
為替換算調整勘定	32,595	6,397
その他の包括利益合計	110,554	28,464
四半期包括利益	1,378,220	1,254,252
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,372,228	1,259,253
少数株主に係る四半期包括利益	5,992	5,001

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日の満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	156,740千円	77,814千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

当社グループの情報機器事業の売上高は、受注状況から年度末に向けて完成する工事の割合が多くなる傾向にあるため、季節的変動があります。

2 減損損失

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	京都府城陽市	
用途	照明機器事業設備	
種類	その他(機械装置及び運搬具)	522,519千円
	その他(工具器具及び備品)	62,213千円
	合計	584,732千円

場所	中国 包頭市	
用途	照明機器事業設備	
種類	その他(機械装置及び運搬具)	5,911千円
	その他(建設仮勘定)	125,983千円
	合計	131,895千円

当社は、使用資産について継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づきグルーピングを行っております。当第3四半期連結累計期間において、上記の使用資産(機械装置及び運搬具、工具器具及び備品、建設仮勘定)について、将来の回収可能性を検討した結果、716,628千円の減損損失を計上いたしました。なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	682,744千円	529,823千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	121,057	10	平成23年3月31日	平成23年6月14日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	108,914	9	平成24年3月31日	平成24年6月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	情報機器	照明機器	コンポーネ ント	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,026,683	3,818,991	3,470,395	12,316,070	209,712	12,525,783	-	12,525,783
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	4,284	2,418	6,703	290,489	297,193	297,193	-
計	5,026,683	3,823,276	3,472,814	12,322,774	500,202	12,822,976	297,193	12,525,783
セグメント利益又は損失( )	79,730	477,939	576,013	18,343	91,507	73,163	1,098,244	1,171,408

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メカトロ製品、商品仕入販売、情報サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 1,098,244千円には、セグメント間取引消去 45,944千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,052,299千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	情報機器	照明機器	コンポーネ ント	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,236,011	3,936,202	3,325,625	11,497,839	307,393	11,805,233	-	11,805,233
セグメント間の内部売上高又は振替高	100	1,632	2,189	3,922	248,143	252,066	252,066	-
計	4,236,111	3,937,835	3,327,814	11,501,761	555,537	12,057,299	252,066	11,805,233
セグメント利益又は損失( )	86,988	245,440	751,559	419,130	32,026	387,104	831,254	444,150

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メカトロ製品、商品仕入販売、情報サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 831,254千円には、セグメント間取引消去5,073千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 836,327千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

照明機器セグメントの使用資産(機械装置及び運搬具、工具器具及び備品、建設仮勘定)について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は、716,628千円であります。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日 )
1 株当たり四半期純損失金額	104円32銭	101円64銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純損失金額 ( 千円 )	1,262,620	1,229,959
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額 ( 千円 )	1,262,620	1,229,959
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	12,103,522	12,101,063

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月14日

星和電機株式会社

取締役会 御中

### 清友監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 平岡 彰信 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 人見 敏之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている星和電機株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、星和電機株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。